

自分で判断できる力を

今、ニュースでは毎日のように「新型コロナウイルス」のことが報じられている。そんな中、中国で生活していた近所の家族が一時的に帰国するという話を聞いた。一緒にいた友だちは、「ウイルスがうつったらどうしよう。」と言っていた。ぼくは、ウイルスのこともよく知らないし、帰国したご近所さんのことを思うと何も答えられなかった。

その夜、家に帰ってそのことを母に話してみた。「ウイルスがうつったら怖いと心配する気持ちは分かるけど…。でも大事なのは、今一番つらいのは誰なのかっていうことなんじゃないかって思うよ。その人も周りの人も安心できるようにするためにどうしたらいいかを考えてみたら、答えが見つかるかもしれないわね。」そう言われて、インターネットでウイルスのことを調べてみた。厚生労働省のホームページでは、『飛沫感染』や『接触感染』でうつる可能性があるの、咳エチケットや手洗いが重要」と書かれていた。また、そのほかには「街を封鎖したこと」「その国にいる日本人を避難させたこと」「新しい病院がつけられたこと」というニュースや、「マスクを大量に買い占めて、転売している人がいること」、逆に「マスクや防護服などを『がんばれ』というメッセージと共に送った自治体に感謝の声が届いている」というニュースが報じられていた。

これらのニュースに、母の言葉を重ねてみた。すると、おのずとウイルスが広がっている地域を支援する行動が正しい行動だと思えた。一番辛い思いをしているのは、ウイルスに感染したり、ウイルスが発生したりした地域だと思うし、早く治療できるように応援すれば周りにも、感染した人も安心することができる。だったら、帰国したご近所さんを応援する方法を考えればいい。たとえば、外出しないでいいように代わりに買い物をしてあげたり、子どもたちと遊んであげたり。自分にできることが少しわかってきて、ちょっと楽しくなった。

早速、考えたことを母に伝えてみた。「よく自分で考えられたわね。さすが、わが息子。」と笑顔で答えてくれた。でも、インターネットでもニュースでも報じられていない考えを母がくれたことがちょっと不思議だったので、母に聞いてみた。

「実は、お母さんは1966年生まれなの。この年は、昔から『丙午（ひのえうま）』といって、この年に生まれた女の子は気性の激しい子になるといわれて、いつもの年より生まれた子どもの数が25%も少なかったの。でも、おじいちゃんは『そんな馬鹿げた迷信より、わが子の命の方が大事に決まってるだろ。』とおばあちゃんを励ましてわたしを生んでくれたの。そんなおじいちゃん、おばあちゃんをお母さんは誇りに思ったわ。」

それと、あなたと同じ中学生の時には、こんなこともあったの。修学旅行先で熊本県の水俣市の中学生と一緒にになったの。その時に、1人の友だちが「水俣って、あの水俣病の水俣？」と声をかけてしまったの。でも、その言葉が相手をととても傷つけたことがわかって、学校に戻ってからみんなで「水俣」について学習したの。そしたら、水俣の人を苦しめたのは工場から流されたメチル水銀だけではなくて、周りの人からの『うつる』という声だったこと、今でも『水俣病がうつる』と言われて嫌な思いをしている人がたくさんいること、今は『日本一の環境都市』と認定されるくらい環境を大切にしている街になっていることを初めて知ったの。『知らないこと、知ろうとしないこと』の怖さを知って、ぞっとしたわ。だから、あなたにはしっかりと真実を知って、自分で判断できるようになってほしかったの。あなたは、それができる人だってわかって、お母さんもうれしいわ。」

こんな話を母から一度も聞いたことがなかったので、びっくりした。最後に母はこう付け加えた。「この国には、昔から目に見えないものがうつる、『ケガレる』っていう考え方や慣習がたくさんあるの。でも、それが差別やいじめにつながってたくさんの人を苦しめてきたという歴史もたくさんあるわ。そんな迷信や慣習についても自分なりの考えを持っておけるといいわね。」その時、ついこの間社会の時間に習った「室町文化」の学習を思い出した。母の言葉をもとに、自分なりの答えを探してみようと思う。